

キャラクター名  
篠崎 彩奈(しのざき あやな)

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン モルフェウス		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	17歳	性別	女
覚醒	渴望	衝動	殺戮	初期侵食率	35	%
出自	名家の生まれ	経験	反発	邂逅	同行者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	2	1	0			3	行動値	7
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	2	0	0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志		1	調達		
運転:	2		芸術:	2		知識:	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
インフィニティウエポン	白兵	3r+11	3	[LV+7]		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
カジュアル	
携帯電話	
思い出の一品	
コネ: 要人への貸し	
メモリー: 両親(悔悟)	
メモリー: UGN(信頼)	
メモリー: 高崎隼人(尊敬)	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	マス	消費
Dロイス: 特異点	P 有為	N 恐怖			
WH: “自由”	P 庇護	N 不安			
GR: 熊切直斗	P 信頼	N 不快感			
“墮とす者”	P 執着	N 無関心			
灯鳥由姫	P 慈愛	N 嫌気			
杉本亮太	P 好意	N 食傷			
高野吾郎	P 連帯感	N 恐怖			

最大財産P: 4    残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
サポートデバイス: 肉体	5	6	SU	至近	自身	自動	80↑	
効果:	R間【肉体】判定D+[LV*2]個 3回迄							
インフィニティウエポン	5	3	Mn	至近	自身	自動		
効果:	武器を作成する							
ライトスピード	1	5	Mn	至近	自身	自動	100↑	
効果:	C値+1で[Ma]を2回行なう 1回迄							
コンセントレイト: モルフェウス	3	2	Ma	-	-	Syn		
効果:	C値-[LV](下限値7)							
一閃	1	2	Ma	武器	-	白兵		
効果:	[全力移動]後に[白兵攻撃]を行なう							
咎人の剣	3	4	Ma	-	-	白兵	リミット	
効果:	攻撃力+[LV*5] 《インフィニティウエポン》限定							
クリスタライズ	3	4	Ma	-	-	Syn	100↑	
効果:	攻撃力+[LV*3] 装甲値無視 3回迄							
リフレックス: ハヌマーン	3	2	Re	至近	自身	Syn		
効果:	C値-[LV](下限値7)							
切り払い	1	1	Re	至近	自身	白兵		
効果:	ドッジを行なう							
砂の結界	1	2	Au	至近	自身	自動		
効果:	カバーリングを行なう 1MP1回迄							
子羊の歌	2	4	Au	視界	単体	自動	100↑	
効果:	ダメージを自身に適用する [LV]回迄							
軽功	★	-	常時	至近	自身	自動		
効果:	あらゆる場所を走り抜ける							
蝙蝠の耳	★	-	Ma	至近	自身	自動		
効果:	聴覚領域を拡大する							

幼いころから良家の子女として、何一つ不自由ない生活を送っていた。だが、世間体の維持や偶像としての在り方、両親や周囲から押し付けられる理想。彼女はそれを受けて、“自由”を感じる事ができなくなっていった。

「自由」が欲しい。それはほんの少しの、唯一の願いとして吐かれる。その言葉は、真実のものとなった。彼女の人生には、波乱が約束されていたから。覚醒した身体は間もなく衝動に吞まれ、自らの意志とは関係なく暴れ出す。気付いた時に視界に広がっていたのは、既に命亡き家族の姿だった。

程なくしてUGNに保護された彼女は、“ファルコンブレード”の下で力の使い方を覚える。しかし、彼女は力を使用することに恐怖を覚えていた。忌まわしき過去を、繰り返したくないから。故に彼は提案した。特設遊撃補助チーム【インベイン】。その一員となってみるのはいかがかと。少し経ち、彼女は【インベイン】で一つの事実を知る事ができた。求める“自由”はここにあったのだと。その“自由”が真実のものであるか、虚偽のものであるかは、誰も知らないのだが。

